

## 水野教育長記者会見概要

日時：令和6年7月23日（火）14時～14時30分

場所：大阪府庁別館6階 委員会議室

### 【水野教育長より】

#### 教育委員会の取り組みについて

皆さん、こんにちは。大阪府教育委員会の取り組みとしてご紹介するのは4点です。

#### ①教員スタートアッププログラムの開催について

学校現場で教員として働くことに関心を持っていただくために、教員免許状はあるけれども、教職に就いたことがない方や、教職から長く離れている方を対象に、今の学校の様子を学ぶことができる「教員スタートアッププログラム」を開催をしています。

今年度は第1回を5月に開催をしております。この度、第2回を9月12日に大阪教育大学の天王寺キャンパスにて、そして第3回を11月4日に大阪学院大学にて開催します。

本日より府のホームページ上で申し込みの受付を開始しております。大変好評につき、第1回は早々に申し込みが定員に達しましたので、お早めにお申し込みいただきたいと思えます。

なお、府教育庁は講師登録につきましても、随時受付をしております。詳細は府のホームページをご覧ください。

#### ②第68回 大阪府学生科学賞の開催について

大阪府内の小学生、中学生、高校生の自主的な科学研究を奨励し、府内の理科教育の充実・発展を図ることを目的として、大阪府学生科学賞を開催いたします。

これは、大阪府内の小中高生から科学研究作品を募集し、優れた作品の表彰を行うとともに、公開展示を行うことにより、科学教育の振興を図るものです。毎年開催をしております、今年で68回目を迎える歴史と伝統のある科学コンクールです。

ちなみに昨年度の学生科学賞には、府全体で55,000点以上の応募があり、大阪府で入賞した作品が日本最高峰の科学コンクールである日本学生科学賞において、高校生が文部科学大臣賞、中学生が入選2等などを受賞いたしました。

このように大阪の子どもたちが科学に興味を持って科学賞に応募してくれていること、また大きな成果に繋がっていただいていることは大変喜ばしく思っております。

昨年度も、いずれの作品も多くのデータを収集、整理をし、結果をまとめ、的確に考察・分析している素晴らしい研究でした。

今年度は、すでに府域の小中学校および義務教育学校、高等学校、支援学校への募集を開

始しております。9月には一次審査が行われまして、優秀作品は10月5日の「大阪府学生科学賞応募作品展」に出展されます。

さらに、本審査の結果、入賞者作品につきましては、11月9日の表彰式で表彰されます。

子どもたちの、「なぜ?」、「どうして?」といった、知的好奇心に基づいた多彩な研究の成果にしっかりと応えていくコンクールとなるよう努めてまいります。

府内の児童生徒の皆さん、これから多数の申し込みを、お待ちしております。

### ③「大阪府情報活用能力ステップシート」について

現在も、そしてこれからの社会においても、情報を主体的に捉えながら、何が重要かを考えて整理し、発信していくことが、ますます重要となってきます。

学校教育におきまして、各教科や探究の時間にその力を育成していくのですが、それらの力を系統的に、いつ、どのように育成するかは各教員に委ねられておまして、忙しい教員が整理・検討するというのは、難しい状況であると感じております。

そこで、府教育庁で数年かけて研究し、この3月、昨年度末に冊子を完成させました。このような形でまとめたものは、あまり他に例がないものと認識しております。

少し内容を詳しく説明させていただきます。まず1、2ページをご覧ください。ここでは、「そもそも情報活用能力とは何か」、「なぜ情報活用能力の育成が必要なのか」を説明するとともに、このステップシートの特徴や情報活用能力の育成をめざした、これからの学校教育でめざす実際の授業風景の一例を載せております。

続いて3ページをご覧ください。情報活用能力を「学びスキル」、「学校図書館活用スキル」、「ICTの基本操作スキル」、「情報モラル・情報セキュリティ」、「プログラミング」の5つのスキルに分けて、小学校低・中・高学年と中学生の四つの発達段階ごとに「できるようになってほしいこと」として示し、あわせて授業実践事例を閲覧できる二次元コードも掲載をしています。

府教育庁としては、このステップシートを活用して、指導をしっかりと普及させていき、自ら社会をより良く変えていこうとする意欲と社会を生き抜く力を、市町村教育委員会と力を合わせて、大阪の子どもたちに育ててまいりたいと思っています。

また、保護者や府民の皆様にも、府としてこのような力の育成をめざしていることを知っていただき、子どもたちの情報活用能力をともに育てていきたいと思っております。

ステップシートは府ホームページに掲載されておりますので、ぜひご覧ください。

### ④「大阪教育ゆめ基金」への寄附の状況について

「大阪教育ゆめ基金」は、大阪の子どもたちの「学び」と「育み」を支えるために、平成20年の12月に設置し、子供たちの学力向上を図る取り組みや、子どもたちの豊かな心を育むための取り組みなどに活用しています。

この「大阪教育ゆめ基金」ですが、本年の4月より、教育の更なる充実を図るために、公

立私立を問わず、母校などを応援したい府内の高校等を個別に選んで寄附ができる制度に改正したところです。

制度改正より約3ヶ月半が経過し、改正から6月末時点までの間に、合計で3,493万3,570円のご寄付を賜りました。

ご寄附いただきました方々に対しまして、この場をお借りして厚くお礼を申し上げます。なお、本日は「大阪教育ゆめ基金」の広報用のパンフレットを皆様にお配りさせていただいております。

このパンフレットは、区民情報プラザなどの府の施設で順次、配架を予定しており、また教育庁が主催するイベント時や各種団体等への広報活動も行うなど、機会を通じて積極的にアプローチしていきたいと考えております。

このチラシの他、大阪府教育庁のYouTubeチャンネルでも、動画を配信をしておりますので、ぜひご覧になってください。

府教育庁といたしましては、この「大阪教育ゆめ基金」をより多くの方に知っていただき、大阪の教育の充実を図ってまいりたいと考えておりますので、ご寄附へのご協力をお願い申し上げます。

#### ○「学校訪問」について

私、教育長による学校訪問も行いました。7月22日の港南造形高等学校で34校目です。この時期が一番、回りやすいのですが、夏休みに入ると授業を見ることはできませんので、まとめて回っているという状況です。

私からは以上です。

#### 【質疑応答】

#### ○支援学校を訪問した際の感想や、感じた課題

(朝日新聞)

中央聴覚支援学校にも学校訪問をされていますが、支援学校などを訪問されてのご感想を教えてください。

(水野教育長)

中央聴覚支援学校には6月26日に行ってまいりまして、他の支援学校も含めて、かなり先生方が丁寧に子どもの状態を見ていただいているなというのが、まず第一の印象です。

そして、聴覚支援も、北視覚支援学校、南視覚支援学校にも行きましたが、障がいの種別が、重複している、複数にまたがっているようなケースは、高度に専門的な知識やアセスメントがあった上での知識が必要だと思いました。先生方が対応されている様子や授業を見て、一言で申しますと、感動しました。

(朝日新聞)

支援学校を見学されて、何か課題に感じるものがありましたら教えてください。

(水野教育長)

課題と言いますと、府立高校の多くにも関わることですが、ハード面のところで、もう少し工夫や、よりこういう配慮ができたらいいなと感じたのは、課題だと思います。

#### ○「大阪教育ゆめ基金」への寄附の現状について

(毎日新聞)

ゆめ基金の募集状況についてです。新制度になってから、3,493万円ということですが、以前の制度と比べて、ここまで3ヶ月ぐらいの集まり具合というのは、多いのか、少ないのか、何かデータがあれば教えてください。

(水野教育長)

受け取めとしては、たくさんいただいているなと感じております。詳細について少し申し上げますと、新制度が始まった4月から6月末までの寄付総額3493万3570円のうち、公立を指定された額が1114万965円です。そして、私立を指定された学が372万2000円です。公立を指定された額が、この3ヶ月で1000万というのは、かなり大きいと感じております。

(毎日新聞)

新制度がプラスされたことによる例年との比較というのはありますでしょうか。

(水野教育長)

令和5年度で言いますと、ゆめ基金の寄付額は5387万円でした。ここから考えると、現段階で、3493万円というのは、ペースとしては早いのかなというふうに考えています。

#### ○万博無料招待事業について（意向調査の結果に対する教育長の捉え）

(読売新聞)

万博の意向調査の結果で、約8割が希望するというお話もありました。このあたりの教育長の受け止めや現状をお聞かせください。

(水野教育長)

先日報じられた意向調査の最終結果、しっかり精査した数値を公表したところであります。結果としては、来場希望が元々の中間報告とそれほど大きく変わりなかった。やはり、

この万博の教育的意義を、一定、学校現場の方にもしっかりと理解いただいて、希望していただいたのかなと思っております。

#### ○万博無料招待事業について（交通の課題に対する教育長の捉え）

（読売新聞）

ありがとうございます。あと課題のところで、交通の状況ですとか、そのコースですとか、この辺りはまだ詳細情報が出ていない部分もございまして、先日、修学旅行向けの説明会等も協会の方からございましたが、今後、交通対策等々について今のところ課題として、このあたりいかがでしょうか。

（水野教育長）

先日の国の説明会では、ずいぶん具体に出てきて、むしろ我々としても、もろもろ要望してきた内容もございましたので、ありがたいなと思っております。

あとは教育的効果というところを一定、ご理解いただいた学校の方から、やはりどの学年を連れて行こうかという点もご検討されての意向調査でした。やはり「バスで行くのか」、「はたまたメトロで行くのか」、「どのぐらいの時間がかかるのか」といったところで、バス停から降りて、実際の会場に入るまでの距離、そのときの給水ポイントとか、休憩所はどの程度あるのか。これは実際、我々も現場から受けていた疑問・質問だったんですが、それが一定、まだこの時期ですのですべて完ぺきではないですが、一定示されたところに関しては評価もしますし、嬉しく思っております。

とはいえ、あの情報で、これで全て安心安全に学校が来ることができるというよりも、その手前のところが示されたという認識でおります。ですので、引き続きその点について、要望はしていきたいという思いでおります。

#### ○万博無料招待事業について（専用列車の議論について）

（共同通信）

万博の無料招待事業に関連してですが、先日、府市と万博協会と大阪メトロの方で校外学習の子どもたちのための専用列車を検討しているという説明がありました。市長、知事は賛成の立場ということですが、教育長としてどのように評価されているかというところを教えていただけますか。

（水野教育長）

もうそれはありがたいですよ。やっぱり子どもたちが万博に行くことを考えたときにどうすれば行きやすいのかと検討いただいた、具体案の1つとして子ども列車を走らせていこうというアイデア自体は歓迎するところではあります。

## ○万博無料招待事業について（交通面での課題）

（共同通信）

交通の状況で特に課題ですとか、例えばバスの手配費用ですとか、教育長として特に感じられている交通面での課題があれば、教えていただけますか。

（水野教育長）

市町村、各学校がそれぞれ違う場所からお越しいただきますので、そのルートによって答えは、バラバラであるというのが前提です。

ですので、バスでお越しいただけるというところに関して言えば、やはり料金面です。この時期のバスの料金がどの程度になってくるのか、はたまた、何人が乗れるバスが大体いくらになるのか、といった計算だったら、1クラスが30人で1台のバスだと、多分結構空席が出ると思うので、空席をどういう形に詰めてお越しいただくかによっても、額が変わってくる。

いずれにしても、バスの料金面が少し見えてくれば、議論としては進むと思います。バスで来るとなると、会場の周辺の交通状況、やはり学校の先生の立場で考えると、もしバスで1時間半ほどかけて会場周辺で渋滞したときに、子どもがトイレに行きたくなったときに、はたしてどうしたらいいんだろうか、こういうところを考えると、バスの中にトイレがあったほうがいいのかなど全部手配するとなると難しいと考えたときに、途中で休憩ポイント、トイレ休憩のポイントをどこで設定するのか、これは先の議論になってくると思うのですが、バスでお越しいただく方には、そういう課題、懸念が現段階ではまだあると考えています。

電車に関しては、ラッシュの混雑時などどの時間帯に来るのかによって、小学生だと乗る前と乗ったあとに点呼を結構します。みなさんも小学生の遠足と一緒に電車に乗った経験があるかもしれません。

降りたあとのスペースって大事なんですよね。そういうところも具体的に中央線のメトロにおいてどういう場所で、どういうタイミングで点呼ができるのか、いわゆるそういうお話ができてくる、そんなステージになってきた。あくまでメトロとバスのところに限って言えばそういう認識ですね。

## ○万博無料招待事業について（バスの利用料金に対する補助金について）

（毎日新聞）

無料招待の交通面の課題というところで、他府県とかですとバスの料金に補助を出したりするなど聞きますが、交通面の課題に対し、教育庁として何かを対策、対応を考えてらっしゃいますか。

(水野教育長)

現時点ではそこはございません。課外学習に対しての交通費の補助というのは、私も市の教育長をしていた経験上、それを補助するというのはあまり聞いたことがない制度といたしますか、やり方にはなっています。とはいえ、万博という一つの大きなものに対してどう考えるかの余地は当然あると思うのですが、現段階で我々大阪の教育庁として、何か補助するという議論がスタートしているかということ、そうではありません。

## ○万博無料招待事業について（意向調査を受けて、必要なバスの台数について）

(日経新聞)

現状、各学校からの移動手段については、どのような希望が出ているのか、その内訳などは教育庁で数字として把握されているのかということと、電車であれば専用電車を検討されているのですけれども、バスの場合は各学校さんで手配しなければならないと認識しています。例えばバスであれば、合計でどれくらい必要になるのか、把握してらっしゃったら教えてください。

(水野教育長)

細かいところは担当課の方に聞いていただければと思うのですが、まさに「バスで来られるのか」、「メトロで来られるのか」、そして、「いつ頃お越しいただくことを想定しているのか」、むしろ大事なのはここなんですよね。

意向調査はそれらを測るものでもありました。調べてみますと、6月の金曜日にたくさん集中しているというデータが上がってきております。

これに対して、実際バスがどのぐらいいるのか、メトロがどのぐらいいるのかというのは、輸送に関する検討委員会等に今後また検討しながら図っていくというステージでおります。

(毎日新聞)

バスを使いたいという希望に対して、需要と供給のバランスは足りている状況なのでしょうか。

(水野教育長)

今のところは、全く足りていないという状況ではないという認識です。当初、皆さんにこの場で、3000台ほど確保ができましたというのをお伝えしたと思うのですが、現段階で、4000台強のバスの台数が確保できている状況です。

その上で、そのバスをどこに充てていくかという議論としましては、小学校の一年生と支援を要する子たちに優先的に充てようということもお伝えしてきました。

この希望数が他の学年体よりも多かったら、バスの台数はもっと必要になるのですが、そういう数字ではなかったもので、確保できている4000強の台数というのは、極端に足りない

状況ではないというのが現段階です。

(毎日新聞)

弱冠数、足りないところはあるかもしれないけれども、需要は一定程度満たせそうということですか。

(水野教育長)

そこまで言い切ることは難しいですけども、今回の意向調査である意味、上限値が見えたわけですよね。

希望する学校数の上限値が見えて、ここから日程が近づくに際して手を下ろしていかれる、どんどん減っていくという見込みではあります。

我々としてはその上限値が知りたかったので、上限値に合わせてバスを 3000 台強から 4000 台強までを今、手配をしている。

バスの手配に関してはこれからも我々は努めていくので上昇値がある。しかし参加に関しては、上限値を超えることはないので、どちらかというところのケアに関しては一定、イメージはついてきたという状況です。

(毎日新聞)

1000 台プラスされたっていうところは、どういう手法で集められたのですか。

(水野教育長)

教育庁の努力となってくるのですが、具体的に言いますと、他府県の、大阪府外のバス協会さん等々に事情をしっかりお知らせして、手配できないかとあたっていきました。

(日経新聞)

どこの学校が無料招待に参加するのかということや、どういう移動手段で行くのかということは、最終的にいつまでに決めるとかというめどは決まっているのでしょうか。

(水野教育長)

次のステージとしてはパビリオン予約のステージになってきます。その予約のときには、来られる日程が確定してきますので、そのときには学校の移動手段が確定しているのではないかとこのところではあります。



## ○学校教育審議会における入試制度改革に係る議論について

(読売新聞)

学校教育審議会で、入試制度改革の議論の大詰めを迎えてるかと思うんですが、現状たたきの台として、特色選抜の導入、選抜入試の一本化、このあたりが話題の中心になっているところですが、現状の教育長の受け止めに教えてください。

(水野教育長)

我々の今の学校教育審議会というところに関しては、教育庁から諮問をしている立場ですので、8月に答申が一定出されるころなのですが、今出ている議論に関しましては、課題に即応したものであると捉えています。ただ前回のときもお伝えしたかと思うんですけども、この入試制度改革というのは、中学校現場にも様々影響がございまして、実際の教育、大阪の教育において子どもたちの40%を担っていただいている私立高校への影響も当然ございまして。

ある程度、全体最適のところを見つつ、最終的には大阪の中学3年生たちがしっかりと選択肢を持てるように、そういう制度設計にできればと、大卒のところでは捉えています。学校教育審議会の議論、今の経緯のところに関しては、そのような受け止めです。

(読売新聞)

実際この制度でスタートさせるタイミングなんですけれども、これまでも一定の方向性が示されている部分があるんですが、大体このスケジュール感で行こうという考えなのか、やはり、もう少し猶予を検討する余地があるのか。このあたりいかがでしょうか。

(水野教育長)

基本的には、このスケジュールというのはとても大切ですので、そこをしっかりと意識しながら進めていきたいと思っています。